

# 検証・浦和電車区事件の真実 No.38

民主化闘争情報 [号外] 2008年8月4日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

## 第38回 職場から逃れたい一心で退職を申し出る

2001年7月13日の朝、ついに退職の決意を固めたY氏は、浦和電車区I区長に申し出た。区長室にはK副区長もいた。

### 区長に退職意思を伝える

Y氏は一礼して区長室に入り「折り入って話があります」と言った。区長が「どのようなことですか」と尋ねると、「退職を申し出たいと思います」と答え、用意していた退職願を差し出した。退職理由は「都合により」とだけ書いた。区長から退職理由を聞かれ、「年末からのできごとで日勤として仕事をしてきましたが、もう限界です。今でも一部の社員から言葉による嫌がらせが続いています」と答えた。一刻も早く職場から逃れたかったY氏は、今さら、仔細を伝える気もなかった。区長は「近く乗務に戻ってもらおうと思ったが...」と言ったが、Y氏は「乗務すると、今以上に嫌がらせが酷くなると言われています」と遮るように言った。「親御さんは承知しているのか」とも聞かれたが、「承知しています」と答えた。「もう少し時間を掛けて解決することはできないのか」とも問われたが、「無理です。一日も早く退職したいと思っています」きっぱりと断った。区長はさらに、「退職の申し出は、原則、希望日の30日前となっている」と伝えたが、Y氏は「承知していますが、一日も早く退職したいと思っています」と言った。脅しから逃れるには退職しか道はないと確信したY氏に迷いはなかった。

何とか引き止めようと思った区長も、もはやY氏の意志を覆すことは不可能だと悟り、「支社に上申してみる」と伝えた。Y氏は「よろしく願います」と述べ、区長室を出た。

### この職場を去るしかないと思いました...

副区長から、「支社に上申するのにあたって、退職理由をまとめて欲しい」と要請があったので、Y氏は自宅のパソコンで書面を作成し、7月17日に提出した。

#### 退職理由について

年末からの労組問題により東労組を脱退させられ、現在は職場内において孤立状態にあります。現在は日勤業務を行っておりますが、一部の組合員から言葉による暴力などもあり業務遂行が困難な状態であります。さらに現場長から、乗務をするように言われ、一度は乗務をすることを考えたのですが、一部の組合員より、乗務するようになれば今なんてものじゃないぞ！辞めたくなくなるほどやってやる！などとも言われ、他の組合員には、おまえが乗務するとまた組織が混乱するだろ！もっと真剣に身の振り方を考えろ！などとも言われ、自分自身が精神的なことから病気になってしまうなど、今では乗務するのに自信が無くなってしまいました。おそらく乗務をしても雑念が多くなり、運転に集中できないと思います。いろいろ考えた結果、この職場を去るしかないと思いました。

Y氏は淡々と退職理由を書いた。とにかく早く職場から逃れたい一心だった。(次号に続く)